

平成28年度 第1回小平市図書館協議会要録

- 1 日 時 平成28年5月12日(木) 午後2時から4時40分まで
- 2 会 場 中央図書館 2階会議室
- 3 出席者 図書館協議会委員：10名 傍聴人：なし
事務局：中央図書館長、館長補佐兼庶務担当係長、花小金井図書館長、
小川西町図書館長、調査担当係長、サービス担当係長、資料担当係長、
大沼図書館長 計8名
- 4 配付資料 資料は省略させていただきます。
- 5 職員の人事異動について(資料No.2)
4月1日付けで、図書館は12名の人事異動あった。
- 6 議事等
参考資料の確認 小平市図書館協議会名簿(資料No.1)
(1) 報告事項
 - ① 平成28年度図書館協議会開催日程について(資料No.3)
年6回の開催を予定している。
 - ② 平成28年度小平市立図書館事業計画について(資料No.4)
平成27年度第6回の図書館協議会で承認をいただいた計画に基づいて、事業に取り組んでいく。
主な事業を説明する。
第1点目、地域の情報拠点として大きな役割を果たすために、地域資料・情報の充実と情報発信を進める。第2点目、中央図書館、仲町図書館に整備したWi-Fi機能や中央図書館に導入した国立国会図書館デジタル化資料送信サービスにより、利用者の調査研究の利便性を図り、情報サービスの充実を図る。第3点目、第3次小平市子ども読書活動推進計画を着実に推進する。第4点目、学校図書館との連携推進館と位置づけた仲町図書館を中心に、学校図書館の支援を行う。第5点目、図書館利用に障がいがある方に対し、ハンディキャップサービスの充実を図る。第6点目、生涯学習の振興と地域資源として周辺地域の活性化に寄与するために、なかまちテラスの事業を実施する。第7点目は、図書館の開館時間拡大を実施(花小金井・仲町・小川西町図書館)する。
 - ③ 図書館運営状況について
・ 図書館行事等の報告と今後の予定について(資料No.5)
(これまでの報告)

3月16日 ハンディキャップサービス交流会 (中央図書館)

3月26日～27日 小平図書館友の会の古本市 (中央公民館ギャラリー)

(小平市立図書館40周年事業として)

3月17日 図書館 親子スペシャルデー ～小さな子どものいる親子を休館日にご招待します～ (中央図書館)

3月19日 講演会「本の虫になった木喰虫 ～平櫛田中が収集した書籍～」(中央図書館)

4月2日～5月5日

全館恒例の「こだいら子ども読書月間」(全館)

布の絵本の展示等(中央図書館)

(今後の予定)

5月14日～15日

「なかもちテラスまつり」(仲町図書館・仲町公民館)

小平図書館友の会と共催で「ビブリオバトル」を実施。

5月18日、25日、6月1日

「絵本の読み聞かせ実践講座」(中央図書館)

6月4日 小平図書館友の会講演会「小平市史の魅力を探る」(中央図書館)

講師 蛭田廣一氏 (図書館職員)

その他、小学校3年生の図書館見学や中学生の職場体験等を予定している。

・平成28年度月別貸出状況について(資料No.6)

4月分のみだが、全館合計で128,028点、前年比では5,813点の減となっている。昨年は、仲町図書館が開館した直後のため133,841点で、一昨年については129,624点と今年度に近い数値である。

なお、月別館別登録者数は、全館で前年比134人減である。

・平成28年度広域利用市別貸出状況について(資料No.7)

貸出者数及び貸出資料数は、いずれも東村山市民の利用が多い。

④ 平成27年度図書館事業報告について(資料No.8)

登録状況では、市内登録者数、市外登録者数ともに伸びている。市内登録者数は、前年比で5,560人増加している。また、貸出資料数については1,573,185点で、前年比86,324点増加している。理由の一つとしては、中央・仲町・花小金井・小川西町図書館において開館時間延長の試行を行ったことによるものである。

・図書購入冊数は、仲町図書館の開館に向けた一時的な購入がなくなったため減となっている。

・所蔵資料数は、前年比14,834点増の1,224,546点であるが、仲町図書館の減については学校への団体貸出用の子ども文庫に移管したことによるものである。

・月別館別登録者数及び貸出者数は、仲町図書館の通年開館により、いずれも増加している。

・リクエストサービスの件数は、平成24年1月から受付件数を5冊から10冊にしたことから増加傾向にあり、相互貸借は概ね例年と同様の傾向にある。

・団体貸出については、小学校が増加している。校長会、司書教諭連絡協議会、図書館と学校との連絡会、教育委員会だよりなど、機会ごとにPRをしている。

・昨年度の図書館事業の実績の特徴として、開館40周年事業を実施した。

⑤ 小平市立図書館の臨時休館について(資料No.9)

毎年実施している図書資料の点検・整理のための臨時休館をする。例年どおり3つの期間に分け、のべ3週間にわたり実施する。3回に分けて実施するため、貸出等は開館しているいずれかの館で可能である。ただし、リクエストの移送は点検終了後となり、また全館のブックポストの利用が可能のため、特別の貸出期限の延長はない。

なお、昨年新たに開館した仲町図書館は、ICタグを設置したため、3日間で蔵書点検を実施する。

⑥ 学校図書館協力員の配置について

学校図書館の運営支援及び機能充実のため、市内小・中学校全校に学校図書館協力員を引き続き配置する。司書教諭や図書担当教諭の指示により図書室を開室し、児童・生徒の利用の支援、図書の整理等を実施する。また、学校図書館協力員の研修を年6回程度実施する予定である。

⑦ 平成28年度司書講習への職員派遣について

今年度も7月下旬から9月中旬にかけ、亜細亜大学へ職員3名の派遣を予定している。

⑧ 平成28年度ブックリサイクル事業について(資料No.10)

10月と2月は一般書、児童書を、1月は雑誌を予定している。対象資料は保存期限の切れたもの、雑誌は2年保存と5年保存、週刊誌は1年保存のものである。

周知方法は、ポスター、ちらし及び図書館ホームページで行う予定である。

(報告事項に関する質疑・応答)

委員：小平市では各学校に図書館から協力員を派遣している。学校側からみた場合に学校が採用するのではなく図書館からの派遣という形で支障はないか。周辺の自治体はどうか。

事務局：他市でも図書館か教育委員会の指導課で派遣を行っている例があり、小平市では図書館で行っている。学校教育法で司書教諭を置くことが望ましいとされる点も今後考慮を要する。その点について、子ども文庫から指導課において配置すべきである意見も頂いているが、図書館のみで解決できるとは考えていない。また、他市の状況や実際の運用で考慮する必要がある。

委員：予算等や様々な事情があると思うが、このままで良いものなのか。

事務局：学校の中の組織との連携は難しいときもある。逆に、図書館が派遣しているというメリットも考えなければならない。

委員：官官協力は良いと思うが、学校図書館の現場にどこまで入っていくのか。

事務局：現在、学校図書館には地域やボランティアの方々などが係わっており、その方々を取りまとめていく役割がある。また、学校によっては取り組みに温度差があり難しい立場もある。

委員：昨年の6月か7月に小学校10校の学校図書館を見学した。そこで感じたことを「お願い」という形で市に提出した。学校と異なる部署で協力員として採用され、各校1名のみが派遣される。校長をはじめ司書教諭の理解がある学校もあるが、図書館からの派遣ということで情報が共有できないことがある。かなりの努力の中で従事しているので、正規に指導課から派遣された方が良い。

事務局：今の段階では、図書館からの派遣の利点をどこに置くかを考えることが重要である。図書館

も学校図書館も同一の事業者のシステムを使用しており、仲町図書館の相談員をフルタイムにしたことでバックアップをどれだけ手厚く取れるかを見ていきたい。

会 長：小平市の教育委員会として、文部科学省からの各学校に図書館司書を置くことが望ましいという文言をどう捉えているのか。図書館に任せるだけなのか、学校側は考えるという姿勢を取るのか。小平市では先行して派遣をしているが、学校側と派遣協力員の命令系統に違いがあることについて考えているのか。

事務局：協力員に対する学校からの情報提供等については図書館側でも指導課を通じて各校長に要請している。

会 長：協力員の派遣を図書館から指導課に移すことを検討していると理解してよいか。

事務局：まだそこまでには至っていない。今の体制でどれだけスムーズにできるかというところである。

会 長：小平市は協力員の派遣が先行しているだけに、指示命令系統を統一することが課題である。

委 員：現場がわからないので尋ねるが、学校図書館としての電算システムはあるのか。

事務局：ある。

委 員：学校図書館のシステムと市の図書館のOPACは連動していないのか。

事務局：していない。

委 員：その必要性はないのか。

事務局：ない。学校図書館のシステムはその図書室のみの資料検索等の利用となる。また、学校図書館のシステムのサーバーは市の図書館側にもあるので検索等情報は得られる。

委 員：他のある自治体では、学校図書館で共有で持っている資料があり、ある時期その需要が高まった際には学校図書館同士で相互貸借ができています。仮に市の図書館が学校図書館に職員を派遣し、かつ図書館システムを市側で行うとすればある種の付加価値を付ければ、学校図書館と市の図書館のシステムが理想の形を築くことができる。

事務局：確かに調べ学習等の機会に資料の紹介等が可能かもしれない。

副会長：学校図書館の司書は、保健の先生やカウンセラーとは違いどのような立場で仕事をしているのか。

事務局：小平市の場合、学校図書館の司書は専任ではなく他の教科を受け持っている。

委 員：司書教諭は担任を持っており、図書館部会の先生たちも同様である。

副会長：資料の事業計画で、2の推進事項の前の文章にある『以上のような動向及び司書の充実を視野に入れ、平成28年度の事業計画を次のとおり定めます。』と明記されていることから実行してもらいたい。特に専門職としての司書及び古文書に携わることができる司書の採用を願いたい。

委 員：図書館に配属になり、司書講習を受講し資格を取得した職員ではどうか。

委 員：司書の資格としては問題ないが、通常の職員は数年での異動がある。専門職として異動のない司書の配置が望まれる。

副会長：鈴木遺跡などは将来を考慮して、学芸員を確保している。図書館も考えなければならない。

事務局：市として検討すべき課題である。今年度は、退職を迎える司書に専門研修を依頼し、図書館職員のレベルアップを図る予定である。

委 員：データベースの保管の一元化をお願いしたい。殊に朝日新聞と読売新聞は同一箇所での保管

をお願いしたい。仲町図書館は現状として調べ学習には不向きである。利用価値を考慮してもらいたい。

事務局：財政的に保管場所の問題もあり検討を要する。また、資料の貸出数は減ってはいるものの、レファレンス件数は増加傾向で、レファレンスそのものに利用者の理解を得る必要があると考えており、レファレンスの必要性を周知していきたい。

副会長：データ(資料)というものは同じ場所になれば利用価値がなく、また使いにくい。資料が分散することは一般の利用者には見やすいが、ある利用者には不便である。

事務局：自治体の図書館には様々な形態がある。例えば、浦安市のように大きな中央館があるところもあれば、小平市のように市内8館あるところもある。サービスの提供も様々である。資料が同一場所のあることの方が良いことは確かだが、現時点では困難である。また直ちに仲町図書館から移動させることも難しい。

委員：事業計画の中にあるリクエストサービスについて、未所蔵図書の購入をリクエスト購入とあるが、これは策定された選書基準とはどのような関係にあるのか。リクエストした資料について選書基準に照らさないと購入してもらえないのか。

事務局：選書といっても全ての資料に対してできるものではない。選書外の資料についてリクエストがあった場合にはリクエスト購入対象とするが、購入に当たっては選書基準に照らすことになる。

副会長：新刊本の目録は、納入業者が作成したものをそのまま使用しているところが増えている。蔵書構成が画一的である。目録作成は司書の仕事の基本である。

事務局：確かに目録作成という技術は、今は実務上はないと思っている。また、書誌についても以前は、図書館の貴重なデータであったが、web上で簡単に書誌が確認できる等考え方も変わりつつある。

委員：リクエストサービス中の相互貸借統計で八王子市の数値が突出している。理由は何か。

事務局：小平市も現在行っているところだが、新刊本については発行後3か月を経過しないと相互貸借として提供していない。八王子市にはこの条件がない。そのため、八王子市には借用を依頼しやすい状況にある。

委員：この統計資料からだと相互貸借の資料数に偏りが見られ、不公平との意見が出ないか。

事務局：現在、相手側の自治体の取扱いに準拠した取扱いを検討している。それにより不公平感はなくなると考えている。

委員：月別の貸出資料数が減っている。登録者数が増えているのにこの状況が継続するのは深刻ではないかと感じる。

事務局：貸出冊数が以前の5冊から10冊に変わったことから増えることが考えられるが、26市を見ても小平市と同様の傾向にある。ただし、小平市ではレファレンスサービスが増加傾向にあることを考えれば、図書館の利用の在り方が変化しつつあると思われる。

また、必要な資料をweb上で確認し、来館しても書架を見ずに予約等の手続きをカウンターのみで済ませてしまうなど、様々な要因が考えられるのではないかと。

委員：先進国全体でも同様なことが言える。1990年頃までは貸出数が増加していたが、その後は右肩下がりを示している。現在、おそらく一番利用しているであろう高齢層がいなくなると、さらに拍車がかかる。図書館の存在が問われることになる。

事務局：図書館は資料を貸し出すだけではない。書架も魅力的に展示をする工夫などしている。

委員：副会長が言われたように、画一化した図書館が増えた。本来、司書が果たすべきことがほとんど無くなっても運営上支障がない状況となってきたのか。今が大きな転換の時期か。

事務局：リクエスト件数は増えている。また、地域資料等の提供の仕方を研究するなど、図書館サービスの在り方を再考する必要があるのかもしれない。

委員：数字だけ追うと貸出至上主義的になるので、ある程度の範囲内を示していれば良いのではないのか。web上で予約ができ希望館で受け取りができるようになった時は貸出数が増えた。これは利便性が反映したものである。全国的にそうであるならば、特に大きな問題があるとは考えていない。ただし、貸出数は図書館の利用実績が出ているので、滞在型の図書館としての利用統計が必要である。

事務局：現在、図書館の指標は貸出数が主なものであるという問題はある。ある時点で図書館に何人の利用者がいるという違った指標が評価の点でも必要と言われている。ただし、現状ではその統計を算出する方法が確立していない。

委員：簡便な機器もあるので、図書館内の滞在数の把握を行った方が良い。

委員：図書館のみならず出版業界も異変が出ている。居心地の良い滞在型の図書館はどのようにしたら作ることができるのか、中身を持って良い図書館を作っていくということが今後の指標になるのではないか。

会長：web上で図書館の利用が簡便になればなるほど利用者が減ることにはいろいろ考慮するところがある。

副会長：大学には、以前、図書館学科というものがあつたが、今は図書館情報学科になり情報が一つの主流になっている。一年の期間で和漢書誌学、西洋書誌学や演習もあつた。だが、徐々にその期間が短縮され、必修から選択の科目になっている。よって、司書の資格を有しても和漢書誌学と西洋書誌学を学んでいないことがある。専門職の司書を採用する際は、そのようなことも考慮しなければいけない。

委員：昔は出版関係も職人みたいな方がいた。現在は、デジタルではほぼ製本までできてしまう。

事務局：図書館の電算システムは5年に1回のリース替えがあり、来年の9月がそれに当たる。

リース替えはシステム全体を見直し、web-OPACやその台数など。またサービスそのものを見直す時期でもある。館内OPACも含め、ご意見を挙げてもらいたい。

会長：図書館サービスにあたり、電算システムに頼るところは大である。そのため使いやすい機器でなければならないと感じる。

委員：図書館のwebを見る利用者の大半が蔵書検索と開館日であると思う。web-OPACをトップページからできるようにする、検索窓を設けたほうが良いと思う。また、トップにカレンダーの表示があれば開館日や休館日が直ちにわかるなどが挙げられる。このような仕様は近隣市であったように思う。

また、こども用のOPACがひらがな表示のみのため読みにくい。さらに、5年で替わるとなれば、ようやく使い慣れてきたのにまた一からとなると影響が出るので、何かしらのある種汎用できるシステムである良いと思う。統計情報も同様である。

事務局：確かに統計の統一的が望ましい。電算の事業者が替わればデータの移行にも書誌情報などに問題がでてくる。

委員：OPACからインターネットに移ることが可能なようなものが良いと思う。

委員：毎週同じ雑誌を予約しているが、「お気に入り」みたいな設定された履歴からナンバーを入れるだけで予約ができるようになると良いと思う。

事務局：現在の小平市のシステムでは個人の資料履歴を残さないようにしているので、設定は難しい。

副会長：新字、旧字の検索対応に支障がある。

事務局：現在の図書館システムの融通性に欠ける点ではある。

会長：典拠ファイルはあるのか。

事務局：ある。ただし、代々の積み上げで必ずしも精査されたものではない。

会長：典拠ファイルを管理するのは図書館の役目である。よって、典拠ファイルをきちんと持てるシステムでなければならない。小平市立図書館が保有している独自のデータベースがあるのか。あれば正確にOPACと連動させることができるのか。書誌作成にあたり、司書が独自に追記できるスペースがどのくらいあるのか。司書が有効に利用できるシステムであるべきである。

事務局：地域資料には反映させたい。

会長：電算システム更新の際、図書館側のシステムを理解している(業者との窓口になる)市の担当職員が必要である。

事務局：前回からプロポーザル方式を取り入れているので、職員側が具体的な仕様を作成し、業者選定が可能である。

委員：webで資料予約をしているが、利用者番号を1回入力して予約後、さらに2点目、3点目と予約を継続して行いたい。現状ではその都度利用者番号を入力しなければならないので、スムーズに行えると嬉しい。また、通販サイトを利用しているが、希望の品がない時に類似の資料表示が出るが、このような表示ができるとありがたい。また、返却日が迫った場合等に、貸出延長を忘れないような工夫はできないか。予算をあまりかける大幅にかけるのではなく、今のシステムを少し変え使い勝手がよいものでも良いと思う。

事務局：希望する資料がなかった場合のお勧め表示は面白いと思うが、図書館においては実際のところ難しいと思われる。

会長：リクエストしたい資料が貸出中の時、類似の資料の案内ができるのは良い。廉価でどこまでカスタマイズできるか、実際可能であった場合に図書館側の希望どおりにカスタマイズされるか問題はあある。

委員：来年9月のリース替えとのことだが、システム検討のタイムリミットはいつか。また、市民にアンケートは取るのか。

事務局：アンケートを取る期間がない。これまでのいろいろな要望を考慮していきたい。来年の4月契約予定だが、様々な決定事項が重なり合うのでタイムリミットは一概に明言できない。また、予算要求時期もあるので今年の8月頃には目処をつけたい。

会長：業者選定を8月もしくは9月にはしたいということか。

事務局：あくまで想定である。業者選定はプロポーザル方式となるので最終的には今年度末になると思われる。仕様は年内に固めたい。

(2) 協議事項

特になし